

デーリー東北

2025年(令和7年)4月10日(木曜日) (11)



八戸港から五戸経由、新郷までの40キロ

八戸工業大学工学部建築・土木工学科コースの黒坂貴裕教授の研究室が、八戸市から新郷村までのトレースコース「キリストの墓巡礼路」を考査した。区間は八戸港から五戸町を経由し、同村のキリストの墓までの約40km。特徴的な建造物などを巡りながら楽しむ設定となつており、青森県南地方におけるインバウンド（訪日客）や外国人在住者の観光需要拡大に貢献したいと考えた。

（田村純也）

巡礼路は、八戸港フェリーターミナルを出発し、産業道路を経て豊崎地区へ向かう。その後は五戸町に入り、浅水地区を経由して新郷村へ。同村西越地区から北上して国道454号に合流し、多くの訪れていたことを驚きのキリストの墓に到着する。八戸港フェリーターミナルを出発点に設定したのは、キリスト伝説が記されている「竹内文書」で、キリストが

日本に流れ着いた場所が八戸港であることにちなむものだ。

（吉田巧樹）

吉田巧樹は、巡礼路を考査した経緯について話す。

「キリストの墓を訪れた時、平日でも外国人客が多くの訪れていたことに驚いた。遠く視点で八戸

町村を調査。洋館の趣を残す同村の旧村消防団第2分団屯所など、現在ではほとんど見られなくなつた建造物に着目し、これらをどうしながらキリストの墓をゴールとする

コースを考えた。

2025年度以降もコ

ースのメンバーの一

人である吉田巧樹さん今春卒業

は、「巡礼路が漫遊する

ことで、貴重な建造物を

保存しようという意識が

高まってほしい」と話す。

巡礼路は2月、八戸市で開かれた「学生&高校生まちづくりコンペティション」で審査され、審査員から「ユニークな発想」などと評価を得た。

2月17～22日に村内

で巡礼路を紹介するバネル展示を行った際も、多くの来場者が新たな視点に興味を示した。

2025年度以降もコ

ース上にある建造物の調

査や安全対策の確立など

取り組み、内容の充実

を目指す。黒坂教授は「ク

マ対策や環境整備など課

題はあるが、住民の理解

を得ながら、地域が盛り

上がる巡礼路を摸索して

いきたい」と意欲を見せた。

「キリストの墓巡礼路」考査

八戸工大工学部 黒坂研究室 観光需要拡大狙い



※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。